

潜在危険性

火災・爆発

- ・ これらの物質のあるものは燃えるが、容易に発火するものはない。
- ・ Pと明示された物質は熱せられたり火災に巻き込まれると、爆発的に重合するおそれがある。
- ・ 熱で容器が爆発するおそれがある。
- ・ 加熱状態で運搬されるものがある。

健康

- ・ 吸入すると有害であるおそれがある。
- ・ 接触により皮膚や眼に炎症を起こすおそれがある。
- ・ アスベストの粉塵を吸入すると、肺に被害を与えるおそれがある。
- ・ 火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- ・ 消火水で汚染を引き起こすことがある。

公共の安全

- ・ まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。
- ・ 直ちに、すべての方向に、適切な距離を漏洩区域として立入禁止とする。
- ・ 関係者以外は近づけない。
- ・ 風上に留まる。

保護具

- ・ 空気呼吸器（SCBA）を着用する。
- ・ 防火服は限られた防護をするに過ぎない。

避難

火災時

- ・ タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離、初期避難距離をとる。

緊急時の措置

火災時

小火災

- ・ 粉末、二酸化炭素、散水又は通常の泡消火剤を使用する。

大火災

- ・ 水の散布、噴霧又は通常の泡消火剤を使用する。
- ・ 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。
- ・ 高圧放水を行なって漏洩物を飛散しない。
- ・ 消火用水をせきとめ、後で廃棄する。

タンク火災

- ・ 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- ・ 安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
- ・ 火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。

漏洩時

- ・ 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
- ・ 危険でなければ洩れを止める。
- ・ 粉塵の発生を防止する。
- ・ アスベスト粉塵の吸入をしない。

少量の乾燥固体の漏洩

- ・ 漏洩物は清浄なシャベルを用いて、清浄な乾燥した容器に入れ、ゆるく覆いをして漏洩場所から移動する。

少量漏洩

- ・ 砂や他の不燃性の吸収剤でとり除き、容器に入れて後で廃棄する。

大量漏洩

- ・ 液体の漏洩物は前方にせきを作り、後で廃棄する。
- ・ 粉末のこぼれはプラスチックシートで覆い、あるいは飛散しないようにする。
- ・ 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

応急手当

- ・ 被災者を新鮮な空気のある場所に移す。
- ・ 呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- ・ 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。
- ・ 汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- ・ 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低15 [20] 分間洗浄する。
- ・ 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。
- ・ 救急車を呼ぶ。